

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 5 年 6 月 30 日現在

機関番号： 9 9 9 9 9

研究種目： 奨励研究

研究期間： 2021 ~ 2021

課題番号： 2 1 H 0 3 8 7 5

研究課題名 明治維新における諸藩周旋方（「藩外交官」）の交流関係の研究

研究代表者

白石 烈（Shiraishi, Tsuyoshi）

宮内庁書陵部編修課・主任研究官

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 330,000 円

研究成果の概要： 本研究成果の概要は、従来不明だった諸藩周旋方の実態について、50藩以上の藩名・人名・人数が確認できたことに加え、諸藩周旋方が京都で開催した会合参加者氏名が初めて判明したこと（20藩50名）。約6年間（文久3年（1863）～明治2年（1869））にわたる周旋方構成員が確認でき、さらに幕末期の周旋方経験者で、明治政府が諸藩の意見を聴取するために設けた貢士・公議人を務めるなど、連続して活動していた人物が複数判明したこと。活動場所について、幕末政治の展開に対応して、江戸・京都・大坂のみならず、内戦（長州征伐）の前線基地にあたる広島や福岡にも諸藩の周旋活動従事者が集合していたことが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの研究では薩摩藩士西郷隆盛や大久保利通などの一部著名人物のみに関心が集中する傾向があった。しかし、周旋方の存在が確認できる藩名は50藩以上にのぼり、周旋方を務めた人名も300名弱が確認できた。このことによって、今後幕末維新期の政治史に参加していた藩を研究する場合、注目すべき人物が誰なのかを特定できた点は意義ある成果だった。

また、周旋方の活動人名が判明する新出史料を発見したため、当該史料を展覧会「新選組展2022—史料から辿る足跡—」に出陳した。福島県と京都府の会場への来場者数は合計9万9605人にのぼったことから、本研究の成果をより広く社会に発信することができた。

研究分野： 明治維新期の政治史

キーワード： 周旋方 国事周旋 京都留守居 定例集会 天下公論 公議人

1. 研究の目的

(1) 幕末維新期の政局において、所属する藩の利害を前提にしつつも、日本全体に関わる課題解決のための国事周旋活動に従事した諸藩周旋方(しゅうせんがた) = “藩外交官”の交流関係の実態について分析する。具体的には、周旋方の存在が確認できる藩の名称・周旋方に該当する藩士の氏名などの基礎データを集約する。

(2) 諸藩周旋方が設置され、実際に活動が確認でき始める時期と、活動を終える時期がいつかを明らかにする。活動の終期については他の役職に転換し、活動に連続性が認められるかどうかにも留意して分析する。

(3) 諸藩周旋方が活動を展開していた地域がどこかを分析する。これまで京都を中心としつつも江戸・大坂なども活動拠点になっていたことは指摘されていたが、その他の地域が確認できるかを分析する。

2. 研究成果

(1) 各地の史料館等に現存する藩政文書の調査と、活字化史料の分析を行うことにより、諸藩周旋方の名簿に該当する史料を新たに約 10 種類確認できたことは大きな成果だった。これにより、周旋方の存在が確認できる藩名が 50 藩以上にのぼることが判明した。各藩周旋方の人名も判明し、人数は 300 名弱であることが確認できた。これは従来の研究から想定されるよりもはるかに大規模・多数である結果となった。

諸藩周旋方は京都において毎月二の付く日に円山の貸座敷で定例集会を開催していたことは分かっていたが、この集会への参加者が 20 藩合計 50 名だったことに加え、参加者氏名も初めて確定できたことも成果として挙げられる。

(2) 諸藩周旋方の活動時期について、少なくとも約 6 年間(文久 3 年(1863)~明治 2 年(1869))であることが確認できた。部分的にはその前年から周旋方の存在が確認できた藩もあるが、文久 3 年 10 月および 11 月時点での名簿は、周旋方に関係が深い史料としては最初期のものと位置づけられる貴重な史料である(35 藩 203 名)。この名簿には明治元年(1868)に、明治政府が諸藩の意見を聴取するために設け、翌 2 年まで活動した貢士・公議人を務めた人物の名前も複数確認できた。これは幕末期の周旋方が明治初期にも連続して政治活動していたことを示しており、貴重な情報と評価できる。

それと関連して、残存史料が少ない時期の諸藩周旋方の活動者氏名が判明する新出史料を発見できたので、より広く公開するため、当該史料を展覧会「新選組展 2022—史料から辿る足跡—」に出陳した。会場は福島県立博物館と京都府京都文化博物館で、来場者数は合計 9 万 9605 人にのぼった。

その他、明治時代の旧大名家による明治維新史編纂業務に関与した者もいるなど、より広範な活動に繋がっていたことも指摘できた。

(3) 諸藩周旋方が活動拠点としていた地域について、幕末政治の展開に対応して京都・江戸・大坂のみならず、長州征伐のような内戦の前線基地にあたる広島や福岡にも周旋方が集合していたことがある程度判明した。情報収集など探索任務を行う複数藩の周旋方が確認でき、これによって幕末期には京都・大坂・江戸・広島・福岡などにおいて、諸藩周旋方がそれぞれ同時並行で活動を展開していたと指摘できた。

以上、従来の研究では薩摩藩士西郷隆盛や大久保利通など、一部の著名人物に関心が集中する傾向が強かったといえる。しかし、実際に幕末期に展開された諸藩周旋方の活動は、想像以上に広範で重層的だったことが判明した。この点は本研究の大きな成果といえる。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1．著者名 白石烈	4．巻 100号
2．論文標題 孝明天皇宸翰と会津松平家－明治天皇への奉呈前後の背景－	5．発行年 2022年
3．雑誌名 福島史学研究	6．最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 白石烈	4．巻 875号
2．論文標題 幕末政治史研究（中央政局分析）入門	5．発行年 2023年
3．雑誌名 歴史評論	6．最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 白石烈	4．巻 11号
2．論文標題 【書評】宮下和幸著『加賀藩の明治維新—新しい藩研究の視座 政治意思決定と「藩公議」—』	5．発行年 2021年
3．雑誌名 加賀藩研究	6．最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 白石烈	4．巻 73号
2．論文標題 【資料紹介】『朝彦親王日記』補遺—文久二年（1862）九月四日条～十月八日条、元治元年（1864）十月三日条～十二月十五日条—	5．発行年 2022年
3．雑誌名 書陵部紀要	6．最初と最後の頁 80-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 白石烈
2. 発表標題 条約勅許諮問と京都留守居・周旋方
3. 学会等名 研究会（オンライン）基盤研究(B)「近世・近代日本における「富国」論の政治的・社会的機能に関する研究」 / 奨励研究「明治維新における諸藩周旋方（「藩外交官」）の交流関係の研究」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白石烈
2. 発表標題 幕末政治と会津藩—京都守護職とはなにか？—
3. 学会等名 令和4年度富岡町図書館文化講演会「幕末の京都と会津藩」（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 白石烈（共著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 福島県立博物館・京都府京都文化博物館・読売新聞社	5. 総ページ数 256
3. 書名 新選組展2022—史料から辿る足跡—	

1. 著者名 白石烈（共著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 富岡町図書館	5. 総ページ数 106
3. 書名 令和4年度富岡町図書館文化講演会 京都守護職創設160年 幕末の京都と会津藩講演録	

〔産業財産権〕

〔その他〕

福島県立博物館・京都文化博物館・読売新聞社ほか主催展覧会「新選組展2022 ―史料から辿る足跡―」（2022年7月23日-11月27日）の出陳史料選定作業に参加。
新聞寄稿「御宸翰提出に秋月の人脈 明治期、会津と薩摩協力」（『福島民報』2022年3月27日朝刊）。新聞記事報道「『京都守護職』とは 富岡で文化講演会、幕末の京都と会津藩解説」（『福島民友新聞』2022年11月7日朝刊）。

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------